学　校　だ　よ　り

令和 ４年 １月 ３１日

NO,390

２月号

横浜市立茅ケ崎小学校
校 長　　宮崎 美代子

学校 http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/chigasaki/

学校教育目標　自分らしさを創る　たくましい　ちがさきっ子

ふろしきのような学校に

校長　宮崎美代子

毎日、寒い日が続いておりますが、日の出が少しずつ早くなり、日の入りは少しずつ遅くなり･･･と、昼が長くなってきているのを感じます。「光の２月」と言われますが、これから春の日差しがどんどん強まってくるのが楽しみです。

私事ですが、年末に小旅行に出かけました。私が泊まった旅館では、歯ブラシ、タオル、ヘアゴムなどのアメニティセットを小さなふろしきに包んで提供してくれました。最近は、巾着袋のところが多いのにふろしきとは珍しい･･･と思ったのですが、そこに「ふろしきの結び方の基本」という栞も一緒に入っていました。ドロップバッグ、バルーンバッグ、ペットボトル包みなどの使い方が例示されており、ふろしきは、変幻自在に姿を変えていろいろなものを包みこみ、運ぶことができるのだなということがわかりました。私たちが普段使っているバッグやリュック、スーツケースなどとは、かなり趣が異なります。

私たち教職員は、「子どもたちのためにいい学校、いい教室を作らなくてはいけない」と考えます。それを使命にしていると言っても過言ではありません。それは最も大事なことだとも思っています。

でも、ふと「一生懸命になるあまり、もしかすると頑丈なスーツケースのような空間を作って、ここに入っていれば安心だよ。だからこの中に入っていなさいという指導をしてしまってはいるのではないか」と思いました。今は、スーツケースのようなものには収まりきれない子どもたちが多くなってきています。どこかをポキッと折らなければ入れない子ども、大きな風船みたいな子どもは空気を抜いてからでないと入れない、逆に小さすぎてスーツケースの中であっちにゴロゴロこっちにゴロゴロ･･･でも、もし入れ物がふろしきだったらどうでしょう。包みたいものの形にふさわしい包み方、結び方が何通りもあるのです。ふろしきが小さかったとしても結び合わせて継ぎ足すこともできるのです。ふろしきのように相手に合わせて自分の姿を変える。そして相手を包み込むことができる。そんな学校･教室を目指していきたいものだと思います。

今年度も残り2ヶ月となりました。やっておけばよかった、やり残したというような悔いが残らないように、しっかり毎日を過ごしていきたいと思います。今月も変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。